

脳神経外科



専門医資格等
 日本脳神経外科学会
 脳神経外科専門医
 日本脳卒中学会
 脳卒中専門医・指導医
 日本脳卒中の外科学会
 技術指導医
 京都大学博士（医学）
 京都大学医学部臨床教授・
 非常勤講師

専門分野
 脳血管障害
 頭蓋底外科
 良性脳腫瘍
 聴神経腫瘍

脳神経センター長
 診療科長
 がんセンター
 脳腫瘍ユニット長
 臨床研究センター
 血管障害室長
福田 俊一

| スタッフ |

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	土井 健人	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医 日本脳神経血管内治療学会脳血栓回収療法実施医	脳神経外科	脳血管障害、 脳腫瘍
医師 (育児休業)	岸田 夏枝 2022年5月8日から	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本医師会認定産業医 京都大学博士（医学）	脳卒中外科	脳血管内手術
医師	牧野 恭秀	日本脳神経外科脳神経外科専門医 日本脳腫瘍学会脳腫瘍診療ガイドライン システムティックレビュー委員 日本脳神経血管内治療学会脳血栓回収療法実施医 京都大学博士（医学）	脳腫瘍	脳腫瘍、脳血管障 害、脊椎脊髓疾患
医師	足立 拓優			

| 令和4年度の主な取組 |

令和4年4月に待望の脳血管内手術の専門医資格を有する足立先生が赴任されました。3年度後半に在籍していた住吉先生は3年度末で異動され、残念ながら脳神経外科は2名欠員のままで4年度もやりくりすることになりました。岸田先生は1年間育休であったため、定員7名のところを実質4名での診療体制となりました。

足立先生に来ていただいたことで、血管内手術の件数は激増し、たとえば脳動脈瘤コイル塞栓術は、令和3年の6件/年から30件/年に増加しました。COVID-19の影響で件数が低下していた直達手術に関しても回復傾向が見られ、脳動脈瘤クリッピング術は6件/年から16件/年に増えました。脳腫瘍手術に関しては、もともと京都府下の市中病院の中ではトップを守ってきましたが、令和4年もこれを維持できました。

2021年12月に導入されたハイブリッド手術室によって難易度の高い脳動脈瘤手術や脳動静脈奇形摘出術の手術をより安全に早く施行することができるようになりました。術中CT撮像が可能でありことから、最新手術用顕微鏡カールツァイス社キネポ900と術中ナビゲーション装置Curve2を連動させることで、病変や周囲の重要な組織などの位置をより正確に把握できるようになりました。令和4年度には脳腫瘍手術におけるナビゲーションシステムの利用や、脳動静脈奇形などにおける術中脳血管撮影を伴う摘出術など、ハイブリッド手術室を大いに活用しました。

当科では、脳卒中を中心とした複数のNHO共同臨床研究を研究代表施設として施行してきました。令和4年度には、土井医師が研究代表である「急性期BAD型脳梗塞に対する抗血栓療法の種類と神経学的予後に関する前向き探索研究」が採択されました。また、「計算流体力学（CFD）解析を用いた内頸動脈狭窄症における血行力学的因子の役割研究」（Carotid CFD Study）の解析結果を論文報告し、「脳動脈瘤の増大およびコイル塞栓術後再発におけるパロキセチンの抑制効果の後ろ向き検討」の結果報告を複数の主要学会で報告しました。臨床研究センターでは、2つ科研費を資金源として、脳血管障害に関する動物実験を行いました。循環器内科と共同で機械学習を利用した論文も2本報告しました。

当科は、京大脳外科関連施設の中でもmajor surgeryの比率が高く、入院症例における手術症例の比率が高い傾向にあることから、症例あたりの入院単価が高いという特徴があります。4年度も入院1日単価は増加傾向にあり、平均在院日数は減少傾向、いまだ低いものの入院期間Ⅱ以内退院率も上昇傾向にあり、おおむね良好な経過でした。今後も単価の高い脳腫瘍や脳血管障害手術症例を中心に症例を集めていく方針です。

| 診療実績 |

入院患者数

	2021年度	2022年度
1日平均患者数（名）	17.6	15.1
新入院患者数（名）	284	276
平均在院日数（日）	20.8	18.3

外来患者数

	2021年度	2022年度
1日平均総患者数（名）	22.9	21.7

主な手術件数（2022年度）

脳血管障害	脳動脈瘤クリッピング術	16件
	頸動脈内膜剥離術（CEA）	5件
	脳動静脈奇形摘出術	1件
	浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス術	6件
	ハイフロー・バイパス術	1件
	脳内出血摘出術	7件
開頭脳腫瘍摘出術	神経膠腫	9件
	髄膜腫	8件
	転移性脳腫瘍	1件
	その他の脳腫瘍	5件
経蝶形骨洞手術	下垂体腫瘍	4件
外傷性頭蓋内血腫摘出術		6件
神経減圧術（顔面痙攣等）		4件
神経内視鏡手術		1件
脊椎・脊髄手術	脊髄腫瘍摘出術	1件
	脊椎症・ヘルニア手術	2件
シャント手術		7件
穿頭術		34件
脳血管内手術	脳動脈瘤コイル塞栓術	30件
	血管形成術（CAS）	4件
	脳血栓回収術	17件
	脳動静脈奇形塞栓術	0件
	脳動静脈瘻塞栓術	2件
	脳腫瘍血管塞栓術	4件
その他の手術	その他の開頭術	2件
	その他	5件
合計		182件

| 学術活動報告（学会・研究発表など） |

発表年月日	発表学会
2022.09.28	日本脳神経外科学会第81回学術総会
「血流感知阻害薬パロキセチンの脳動脈瘤コイル塞栓術後再開通抑制効果について Drug for aneurysm study」 福田 俊一、丹羽 陽子、連 乃駿、福田 美雪、飯原 弘二	
2022.12.02	第41回東海クモ膜下出血研究会
「血行力学的アプローチによる脳動脈瘤コイル塞栓術後の再開通予防薬開発について」 福田 俊一	
2023.02.10	International Stroke Conference 2023
「The P2X4 Inhibitor, Paroxetine Dramatically Prevents Not Only Growth Of Unruptured Cerebral Aneurysms But Also Recanalization After Aneurysm Coil Embolization ; A Retrospective Clinical Study, Drug For Aneurysm Study」 Shunichi Fukuda, Youko Niwa, Naohiro Yonemoto, Nice Ren, Koji Iihara, NHO Drug for aneurysm study group	

発表年月日 発表学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属)

2023.03.16 STROKE2023

「Drug for aneurysm Study解析結果：血流感知阻害薬パロキセチンの未破裂脳動脈瘤増大抑制効果について」
福田 俊一、丹羽 陽子、連 乃駿、福田 美雪、飯原 弘二

| 投稿論文など |

論文種類 / タイトル / 著書・雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年月, 出版社
著者 (下線は当院所属)

原著論文

Pretreatment with perlecan-conjugated laminin-E8 fragment enhances maturation of grafted dopaminergic progenitors in Parkinson's disease model

Stem Cell Translational Medicine, 11, 7, 767-777, 2022.07

Hiromasa Adachi, Asuka Morizane, Sadaharu Torikoshi, Fabian Raudzus, Yukimasa Taniguchi,
Susumu Miyamoto, Kiyotoshi Sekiguchi, Jun Takahashi

原著論文

Hemodynamic Risk Factors for the Development of Carotid Stenosis in Patients with Unilateral Carotid Stenosis.

World Neurosurg, 160, e353-e371, 2022.04

Fukuda S, Shimogonya Y, Yonemoto N, Fukuda M, Watanabe A, Fujiwara K, Enomoto R, Hasegawa K,
Yasoda A, Tsukahara T ; NHO Carotid CFD Study Group.

原著論文

Predicting cerebral infarction in patients with atrial fibrillation using machine learning : The Fushimi AF registry.

J Cereb Blood Flow Metab, 42, 5, 746-756, 2022.05

Nishi H, Oishi N, Ogawa H, Natsue K, Doi K, Kawakami O, Aoki T, Fukuda S, Akao M,
Tsukahara T ; Fushimi AF Registry investigators.

原著論文

Machine Learning Risk Prediction for Incident Heart Failure in Patients With Atrial Fibrillation.

JACC Asia, 2, 6, 706-716, 2022.11

Hamatani Y, Nishi H, Iguchi M, Esato M, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Fukuda S,
Akao M ; Fushimi AF Registry Investigators.